

株式会社 WOWOW プラス 番組審議会議事録 (2025 年 4 月 17 日開催分)

開催年月日 : 2025 年 4 月 17 日(木) 11:00~12:00
開催場所 : 株式会社 WOWOW プラス内 Space17C 会議室
出席 : 番組審議員 7 名
WOWOW プラス 7 名

出席者

[審議員] 青木真弥、池ノ辺直子、音好宏、高寺成紀、富澤一誠、村上典吏子、湯浅正敏 (以上 50 音順、敬称略)

[放送事業者] (株式会社 WOWOW プラス)

宮澤辰之、森田健介、松田健吾、植竹伸剛、青木昭、内藤友基 (記録撮影)、高野佳彦(書記)

議題 : (1) 2025 年 1 月~3 月の「WOWOW プラス」に対する視聴者からの問い合わせや指摘・意見について
(2) 「WOWOW プラス」の番組内容、編成内容に関する審議

報告事項 : 2025 年 1 月~3 月の「WOWOW プラス」に対する視聴者からの問い合わせや指摘・意見について

株式会社 WOWOW プラス メディア戦略局長より代表的な内容等の概要説明を行った。

審議事項 : [審議番組]
『刑事ウルリケ~連続猟奇殺人事件~』

<審議意図>

2025 年 1 月 20 日(月)にドイツ発のミステリードラマ『刑事ウルリケ~連続猟奇殺人事件~』を日本初放送。2022 年にドイツで制作された 6 話完結のゴシックミステリードラマを、日本語字幕版で全話一挙放送。

英国ドラマや北欧ドラマなど、上質なヨーロッパミステリードラマをお届けしてきた WOWOW プラスが独自の視点で調達し、日本語字幕版を自社制作して放送した。

- ・本番組への評価と、それが WOWOW プラス視聴者にとって価値ある番組と考えられるか
- ・ヨーロッパミステリードラマを中心に、日本初上陸の海外ドラマを調達・放送する取り組みについての評価

審議内容 : ■審議員意見

・今回は初めて WOWOW プラスで放送した、ということで、作品選定については色々と必要な番組を発掘されていけばいいと思うが、この作品はストーリー展開などが弱く監督(ステファン・リック)はいわゆる“プレバト”風に言えば「才能なし」だろう。この作品を選出したこともその意味では「才能なし」ではないか。以前審議に上がった「刑事モース」は「才能あり」だったと思うが。ただ、今後も積極的な番組選びや、開発は続けて欲しい。

・この手のドラマを一話だけ見て作品全体を評価することは非常に難しく良し悪しは言いにくい、歴史的な背景が分かってないと入り込めない感じで、非常にハードルが高い、入り口が狭い、という印象。ただ、ドイツのドラマ、ミステリーなど普段他がやってない番

組を探してくることは WOWOW プラスの独自性なので続けて欲しいと思う。ナビゲーションガイド的な情報提供を短い番組や HP などでおこなって入り口を入りやすくすることは必要。この作品自体が面白いと思えるか、や、歴史的な背景とか、ある種の儀式とか秘密結社などの引っ張りで次を見ようと思うかどうか、は、評価の難しいところだと思う。

- ・ラストに引っ張りもない地味な作品だったが、コンテンツが画一化する時代にあって、他局では観ることの出来ない作品を扱うことは、独自性の訴えにも繋がり評価できた。一方で、万人が視聴を継続しようと思える作風ではない気がした。番宣などで作品の魅力を補完的に、かつ強烈に発信した方が良いのではないかと思った。
- ・以前より欧州作品を一生懸命、編成し、展開されている姿勢を非常に高く評価し激励したいと思っている。現在配信が非常に強くなり作品作りが世界市場を意識したジェットコースター的な目を引くものに傾斜している世の中で欧州作品をどのようにプレゼンスを示していくのか、は大変だが非常に重要。そのためにそのように PR をしていくかが問われている。第一話だけでは正直楽しみ切れなかったが、複数話出す、など見せ方を変えれば印象も変わるのでは。
- ・面白くなさそうだな、と思って見てみることにしていて、やはり面白くなかった。全 6 話あるとのことだが 6 話を見るっていう感じにはならなかった。今回は審議会があるから、が自分自身の動機付けだったが、一般の方たちに対しては、ヨーロッパミステリードラマ枠への関心の喚起や誰かが説明して面白そうだと思うさせる、あるいは「見られるものなら見てみる」というくらいのアピールのかけ方で、見る側の体勢を整える、ということが大事になるのではないか。
- ・Netflix や配信で検索してもドイツ作品はなかなか出てこない。なかなか見られないものを提供するのが WOWOW プラスなんだぜ、という方向性がよいのではないか。第一話だけでは正直よくわからずそれで感想を言うことは憚られるが、神話のこととか、背景など少し説明があると入りやすかったとは感じるので、どのような入口を作るか、は大事。40 分×6 話は見るにはちょうどよい分量だと思う。
- ・猟奇的なものは大の苦手だが、ベルリン崩壊後の 1993 年が舞台であること、悪魔祓いの儀式や神話、ルーン文字などにもものすごく興味があり、地味なヒロインのいわくありげな感じと、相棒となって来る、外から来た男性刑事も何かを抱えていそうだしこの先行きのドラマの展開に、振りはあるって、東西ドイツの融合って結構大変だになっていう視点も含めて見ると、もしかしたら、面白い話になるかも、とは感じた。こういうドイツやヨーロッパの番組を編成に組み込んでいくことは非常に大切なことだし、なかなか他で見られないものを見せることを WOWOW プラスの姿勢として今後も大事にしてほしい。刺激的なキャッチも使って視聴者を拡大していくような努力は続けていってもらいたい。

連絡事項： 次回番組審議会は、2025 年 7 月 17 日(木)午前 11 時(予定)より開催。

以上